



9～10月にかけて、3回の全校授業研究会を行いました。各学部から授業提示していただき、キャリア教育全体計画に示している重点事項に迫る授業づくりと児童生徒の変容を全校で参観することができました。研究会においては、「授業改善」「教育課程」に関わる協議を行い、今後の授業づくりや教育課程の編成に結び付く意見がたくさん挙げられました。

11月9日は、事前研究会を行います。事前研究会では、全校授業研究会で得られた示唆を基にした授業となります。そこで、全校授業研究会で出た意見と指導助言の要点を振り返り、事前研究会を公開研究に向けたよりよいものにしていきましょう。

第1回全校授業研究会(高等部職業科)

～協議より～

『授業改善』生徒が経験を生かし、自ら考え、判断し、行動する姿を育む教師の手立て

成果：「めあて」「まとめ」の提示。付箋紙、ワークシートを用いた思考の整理。学びの積み重ね。

改善案：段階的な話し合い活動。教師と生徒のめあての捉え方。まとめ方（具体性や課題解決）。

『教育課程』学習や経験を生活に結び付けるための方策

学びを実践する機会や地域資源を活用した成功体験の積み重ね 家庭との連携（ねらいの共有等）

小学部段階からのゴールを明確化 卒業後を見据えた指導計画 集団学習での学び

～指導助言より～

- ・めあて、活動の内容、まとめ方の提示は、何をどこまで学習するのかが明確になる。
- ・生徒は、働くために必要な力を自分のこととして捉えることが大事。なぜ必要か？やるべきことを今やると、自分がどうなったかを実感できる単元でもある。
- ・教材研究の視点から社会の変化をつかむための情報収集も大切にしていこう。
- ・「そのためには議論」が大切⇒実態や願い、目指す姿があり、そのために何をするか？を練り合う。
- ・客観的な評価に向けて⇒単元テストの実施により、理解度、習熟度、教師の手立てを評価できる。

第2回全校授業研究会(小学部生活単元学習)

～協議より～

『授業改善』自分のやる事が分かり、意欲的に活動に向かう姿を育む教師の手立て

成果：分かりやすい視覚支援。児童にとって魅力的な教材。安心して取り組める雰囲気や関わり。

改善案：めあてにせまるまとめ方（振り返り）。めあてに対する即時評価。小単元後半での導入部分。

『教育課程』本単元と、生活単元学習の他単元や他の学習の形態との有効な関連付けについて

本単元から興味の広がり（おぼけ等） 広がり⇒対象や相手、地域資源 生単の課題を他教科へ

つなげる 生活単元学習に含まれる教科の要素との一致 ルールや順番、役割（教育課程全般）

～指導助言より～

- ・授業のめあては、児童の視点まで下ろして提示することが大切となる。
- ・単元観については、「なぜ、黒髭ゲーム？」が分かるように書くことが大切。教材や地域資源等の選定に関しての理由付けを明確にする。
- ・障害の重い児童は、自分がアクションを起こしたことで変化を得られる工夫をすることが大切。
- ・生単はテーマが大切。児童から「今日これやろう！」が出てくるとよい。

第3回全校授業研究会(中学部生活単元学習)

～協議より～

『授業改善』自分の役割を理解し、協力してやり遂げる姿を育む教師の手立て

成果：タブレット端末による評価。生徒の答えを引き出す発問。生徒にとって分かりやすいテーマ。

改善案：板書（情報量）の調整。めあてとまとめの整合性。小単元後半での導入部分。

『教育課程』学習集団の中で、役割を果たそうとする姿を育むための学習

学習や活動への動機付けや共通の目的意識を高める 認められる経験を積み重ねる

「話を聞く」「並ぶ」等基本的なことも役割の一つであり、学習の始まり

役割をやり遂げる経験を積み重ね、役割を広げていく 外部評価も用い肯定的な自己理解を深める

～指導助言より～

- ・「役割を果たす」は係活動に限らず、集団の中で自分がすべきことを意識し、行動することである。
- ・キャリア教育全体計画の重点事項と授業の目標との関連が見えるのがよい。
- ・共通の目的があるからこそ、友達同士で認め合っていたのではないか。
- ・授業では、学習ルール等が押さえや生徒が気付く、考える場面、発言を受け止め、広げたり、深めたりする関わりがあった。

*全校授業研究会で得られた示唆を踏まえて、事前研究会では、公開研究会に向けてよりよい授業づくりができるように学部全員で考えていきましょう！（事前研究会は、授業改善のみの協議となります。）

私たちのゴールは？

児童生徒が自分の役割に気付き、自分らしさを発揮し、自分のなりたい姿に向かって活動するための授業実践を積み重ねていくことであり、その積み重ねにより、社会的自立につながる力を育むことです。

第2回全校研究会 授業改善 CO の指導助言より

公開研や事前研は？

学部の創意として授業提示していただきます。1時間の提示ですが、日々の授業の積み重ねと評価・改善の繰り返しの結果として提示します。今後、更に系統的で継続性のある指導行っていくために協議や意見交換をしていきましょう。

また研究会は、授業者のためだけに開催しているものではありません。会に参加した一人一人が「自分なら…」の視点で見たり、考えたりすることで、次の日からの授業改善につながります。児童生徒一人一人の社会的自立につながる力を育むために、実りある研究会にしていきたいと思います。



← 場所や相手が変わっても…魅力的な教材を前に、自分の役割に気付き、自分らしさを発揮し、自分のなりたい姿に向かって活動する児童

学校祭のステージ発表練習の一場面より